

# 「今川了俊」の諸本について——十行三十丁本に注目して——

森 谷 裕美子

「近松研究所紀要」第28号の拙稿「〔資料紹介〕八行本『今川了俊』」において『今川了俊』八行本について紹介させて頂いた。その折、

『今川了俊』八行本と絵入細字本、及び十行三十三丁本との簡略な比較を行った。ただ『今川了俊』には十行三十丁本も存在する。そこで本稿では、十行三十丁本と八行本等の諸本との相違に焦点を絞り、少し見てゆきたい。

十行三十丁本は、大東急記念文庫、上田市立図書館花月文庫他に所蔵されている。まず、十行三十丁本の書誌を記す。

所蔵 大東急記念文庫

体裁 半紙本 二一・一×十五・三センチ 表紙は藍色無地

題簽 欠

内題 今川了俊

行数 十行

丁数 三十丁

柱 今序、今二…今卅終

他に段を示す㊦㊧㊨の表示もあり。

版元 京 鶴屋喜右衛門

奥書 右此本者以太夫直伝写

之頌句音節墨譜等不残  
毫厘令校合候畢尤加秘  
密全令開版者也

京二條通寺町西へ入町

鶴屋毘右衛門板

(印記なし)

印記 見返しに「久原文庫」朱文印を押した紙を貼る。

備考 上田市立図書館花月文庫所蔵本は、奥書が欠けている。

次に『今川了俊』八行本、その他の諸本との本文を比較してみる。八行本の他に、絵入細字本、十行三十三丁本が存在していることが明らかであるので、それぞれの本に以下のように番号を付した。

1 八行本（「近松研究所紀要」第28号の頁と上段、下段及び行数）

2 絵入細字本（『正本近松全集』第1巻の頁、行数）

3 十行三十三丁本（『近松全集』第1巻の頁、行数）

4 十行三十丁本（原本の丁数と行数）

※備考。八行本との相違箇所を中心に記した。

以下、この4種の本について見てゆくが、文字遣いや送り仮名の相違、句点、濁点及びルビの有無、句点、節章の位置の若干の相違等については記していないものがある。また本稿では、「近松研究所紀要」第28号の「資料紹介」八行本『今川了俊』では扱えなかった十行三十丁本に注目して比較を記していることもあり、八行本や絵入細字本の独自の箇所が、掲げきれしていない場合もあるかもしれない。お許し頂きたい。

## 初段

1 西征賦（32頁下段本文1行）

2 せい／＼のふ（343頁本文1行）

3 西征賦（579頁本文1行）

4 西征賦（1オ本文1行）

※3、4ルビ「の」を省略。4ルビ「せい／＼」とする。

1 心のふちに（32頁本文6行）

2 心のふちに（343頁本文5行）

3 心のふちに（579頁本文6行）

4 心ふちに（1オ本文6行）

※4「の」を省略。

1 床ちかくまねき。こよひ（32頁下段本文15行）

2 とちちかくまねきこよひ（343頁本文12行）

3 床近くまねき。こよひ（580頁6行）

4 床ちかくまねき。こよひ（1ウ6行）

※3、4節付「ハル」「中」「詞」を省略。

1 ふじ山のふもとに（32頁下段本文16行）

2 ふじさんのふもとに（343頁本文13行）

3 ふじ山のふもとに（580頁7行）

4 ふじ山のふもと（1ウ7行）

※4「に」を省略。

1 宣へは貞広聞給ひ（33頁上段2行）

2 の給へはさだひろ聞給ひ（344頁1行）

3 宣へは貞広聞給ひ（580頁10行）

4 宣へ貞広聞給ひ（1オ10行）

※3、4節付「色」省略。4「は」省略。

1 抑青砥（33頁上段6行）

2 そも／＼あをと（344頁2行）

3 抑青砥（581頁2行）

4<sup>〇地</sup> 抑あをと（2オ3行）

※3、4節付「ウ」を省略。

1 父藤綱没して後<sup>中</sup>。子息五郎は（33頁上段7行）

2 父ふぢつなもつしてのち<sup>中</sup>。しそく五郎は（344頁3行）

3 父藤綱没して後<sup>中</sup>。子息五郎は（581頁3行）

4 父藤綱もつして後<sup>中</sup>。子息五郎は（2オ4行）

※3、4節付「ウ」省略。4節付「中」の位置が異なる。

1<sup>フシ</sup> 一どにとつと（33頁上段10行）

2<sup>フシ</sup> 一どにとつと（344頁5行）

3<sup>フシ</sup> 一どにとつと（581頁6行）

4 一どにとつと（2オ7行）

※4節付「フシ」を省略。

1 大手をたゝいてからゝと（33頁上段15行）

2 大手をたゝいてからゝと（344頁8行）

3 大手をたゝいてからゝと（581頁11行）

4 大手をたゝいかゝらゝと（2オ10行）

※4「て」を省略。

1<sup>ハル</sup> たのもしからず（33頁上段21行）

2 頼もしからず（344頁11行）

3<sup>ハル</sup> たのもしからず（582頁5行）

4 たのもしからず（2オ5行）

※4節付「ハル」を省略。

1<sup>ハル</sup> 国のしつけん（33頁下段2行）

2<sup>ハル</sup> 国のしつけん（344頁14行）

3<sup>ハル</sup> 国のしつけん（582頁11行）

4 国のしつけん（2ウ9行）

※4節付「ハル」を省略。

1<sup>ハル</sup> 御恩賞を蒙る事（33頁下段5行）

2 御おんしやうをかうふること（344頁16行）

3<sup>ハル</sup> 御おんしやうをかうむる事（583頁2行）

4<sup>ハル</sup> 御恩しやうをかうむること（3オ1行）

※2は「御」より上に節付「ウ」と句点あり。3、4は節付「ウ」と「ハル」の位置が近い。

1<sup>色</sup> な、めならず（33頁下段8行）

2<sup>色</sup> な、めならず（344頁17行）

3 な、めならず（583頁5行）

4 な、めならず（3オ3行）

※3、4 節付「色」を省略。

1 青砥五郎が (33頁下段15行)

2 あをと五郎が (345頁4行)

3 青砥五郎が (583頁12行)

4 あをとが (3才8行)

※4「五郎」を省略。

1 召あつめ (33頁下段17行)

2 召あつめ (345頁6行)

3 召あつめ (584頁2行)

4 召あつめ (3才10行)

※3、4 節付「色」を省略。

1 使を立て (34頁上段2行)

2 つかひを立て (345頁11行)

3 使を立て (584頁12行)

4 夫を立て (3才6行)

※4「夫」とする。

1 青砥五郎藤次参上と (34頁上段4行)

2 あをと五郎ふちつぐ参上と (345頁12行)

3 青砥五郎藤次参上と (585頁2行)

4 あをと五郎藤次参上 (3才8行)

※4「と」を省略。

1 跪き (34頁上段5行)

2 ひざまづき (345頁13行)

3 ひざまづき (585頁3行)

4 ひざまづき (3才9行)

※2、3、4 節付「色」を省略。

1 おとなしうこそ (34頁上段13行)

2 おとなしうこそ (345頁17行)

3 おとなしうこそ (585頁11行)

4 おなじうこそ (4才4行)

※4「おなじう」とする。

1 青砥がまへになげ出す 駿河守を始とし (34頁上段17行)

2 あをとかまへになげ出す するがのかみをはじめとし (348頁

行)

3 青砥がまへになげ出す 駿河守をはじめとし (586頁3行)

4 あをとがまへになげ出す するかの守をはじめとし (4才7行)

※4 送り仮名「す」を省略。

- 1 青砥すきくはをつ取（地色ウあをとハル）（34頁上段20行）
  - 2 あをとすきくはをつ取（地色ウハル）（348頁3行）
  - 3 青砥すきくはをつ取（地色ハル）（586頁6行）
  - 4 青砥すきくはをおつ取（地色ハル）（4オ9行）
- ※3、4 節付「地色」とする。

- 1 五こくぶによの（地色ハル）（34頁上段23行）
  - 2 五こくぶによの（地色ハル）（348頁5行）
  - 3 五こくじによの（地色ハル）（586頁9行）
  - 4 五こくじによの（地色ハル）（4ウ1行）
- ※3「じによ」4「じによ」とする。

- 1 どうざして（地色ハル）（34頁下段10行）
  - 2 どうざして（地色ハル）（348頁11行）
  - 3 どうざして（地色ハル）（587頁9行）
  - 4 どうざして（地色中）（4ウ9行）
- ※4 節付「地色中」とする。

- 1 おくにぞ入にける（地色ウ）あをと（地色ウ）は（35頁上段3行）

- 2 おくにぞ入にける（地色ウ）あをと（地色ウ）は（349頁3行）
  - 3 をくにぞ入にける（地色）あをと（地色）は（589頁4行）
  - 4 をくにぞ入にける（地色）あをと（地色）は（5ウ1行）
- ※3、4 節付「地色」とする。

- 1 御身ははぢはしり給はぬか。（35頁上段8行）
  - 2 御身ははぢはしり給はぬか。（349頁5行）
  - 3 御身ははぢはしり給はぬか。（589頁9行）
  - 4 御身ははぢをしり給はぬか。（5ウ5行）
- ※4「はちを」とする。

- 1 何いとまとらんとは。（35頁上段11行）
  - 2 何いとまとらんとは。（349頁7行）
  - 3 いとまとらんとは。（589頁12行）
  - 4 いとまとらんとは。（5ウ7行）
- ※3、4「何」を省略。

- 1 それ程の事ををのれらに（35頁上段21行）
  - 2 それ程の事ををのれらに（349頁12行）
  - 3 それ程の事ををのれらに（590頁10行）
  - 4 それ程事をおのれに（6オ3行）
- ※4「の」「ら」を省略。

- 1 敵身かたみには (35頁下段2行)
  - 2 かたき身には (349頁15行)
  - 3 敵の身には (591頁4行)
  - 4 敵の身には (6才7行)
- ※3、4「の」を加える。

- 1 何事もこらへてやこらへてやとぞなき地色中あたり。あをとほ (35頁下段8行)
  - 2 何事もこらへてやこらへてやとぞなき地色中あたり。あをとほ (350頁2行)
  - 3 何事もこらへてやこらへてやとぞなき地色あたり。青砥地色は (591頁11行)
  - 4 何事もこらへてやくとぞなき地色あたり。青とは (6ウ2行)
- ※2節付「フシ」を一つ省略。3、4節付「フシ」を一つ省略し、「地色」とする。

- 1 我にまかせととんで入ル。 (35頁下段19行)
  - 2 我にまかせととんで入 (350頁7行)
  - 3 我にまかせととんで入ル。 (592頁9行)
  - 4 我にまかせてとんで入。 (6ウ10行)
- ※4「まかせて」とする。

- 1 かけ入かけ出しみしが。 (35頁下段21行)
  - 2 かけ入かけ出しみしが。 (350頁8行)
  - 3 かけ入かけ出しみしが。 (592頁11行)
  - 4 かけ入出しみしが。 (7才1行)
- ※4「かけ出」の「かけ」を省略。

- 1 あんずれば (35頁下段22行)
  - 2 あんずれば (350頁9行)
  - 3 あんずれば (592頁12行)
  - 4 あんずるば (7才1行)
- ※4「あんずる」とする。

- 1 かんになちやうぶも (35頁下段25行)
- 2 かんになちやうぶも (350頁10行)
- 3 かんになちやうぶも (593頁3行)
- 4 かんちやうぶも (7才4行)

※4「にん」を省略。「う」の文字はよく判読できない。

## 第二

- 1 今川了俊れうしゆんの (36頁上段3行)
- 2 今川れうしゆんの (350頁12行)
- 3 今川了俊の (593頁6行)
- 4 今川了俊の (7才6行)

※2、3、4 節付「地」を省略。2「今川」の前、第二の冒頭に「扱其後<sup>地</sup>」を付す。

- 1 勝房<sup>かつかさ</sup> (36頁上段6行)
  - 2 かつふさ (350頁14行)
  - 3 勝房<sup>かつさ</sup> (593頁9行)
  - 4 勝ふさ<sup>かつ</sup> (7才8行)
- ※3 ルビ「ふ」見当たらず。

- 1 荒川蔵人<sup>あらかんくら</sup> (36頁上段6行)
  - 2 あらかはくらんど (350頁14行)
  - 3 荒川蔵人<sup>あらかんくら</sup> (593頁9行)
  - 4 荒川くらん (7才8行)
- ※4「ど」を省略。

- 1 はせ給へば (36頁上段7行)
  - 2 はせ給へば (350頁14行)
  - 3 はせ給へば (593頁10行)
  - 4 はせ給へ (7才9行)
- ※4「ば」を省略。

- 1 しもにいためる。<sup>フシ</sup> ふるやなぎ (36頁上段17行)
  - 2 しもにいためる。<sup>フシ</sup> ふるやなぎ (351頁2行)
  - 3 しもにいためる。<sup>フシ</sup> ふるやなぎ (594頁9行)
  - 4 しもいためる。<sup>フシ</sup> ふるやなぎ (7ウ6行)
- ※3、4 節付「地色」とする。4「に」を省略。

- 1 ぢやうごうにて (36頁上段19行)
  - 2 ぢやうごうにて (351頁3行)
  - 3 ぢやうごうにて (594頁11行)
  - 4 ぢやうごうにて (7ウ8行)
- ※4 節付「ウ」を省略。

- 1 立より (36頁上段21行)
  - 2 立より (351頁4行)
  - 3 立より (595頁1行)
  - 4 立入 (7ウ8行)
- ※4「入」とする。

- 1 まくらをもたげ (36頁上段23行)
- 2 まくらをもたけ (351頁5行)
- 3 まくらをもたげ (595頁3行)
- 4 枕をもたへ上 (7ウ9行)

※4「もたへ上」とする。

1 めづらしや仲秋。<sup>ハル</sup>我は<sup>中ウ</sup>（36頁上段23行）

2 めづらしやなか秋。<sup>ハル</sup>我は<sup>中ウ</sup>（351頁5行）

3 めづらしや仲秋。我は<sup>中ウ</sup>（595頁3行）

4 めづらしや仲秋我は<sup>ハル</sup>（7ウ10行）

※2、4節付「中」を一つ省略。4節付「ハル」は判読しにくい。

1 此一卷は入道が大学中庸の<sup>だいがくちうよう</sup>（36頁下段7行）

2 此一くはんは入道が大がくちうようの<sup>だいがくちうよう</sup>（351頁9行）

3 此一卷は入道が大学中庸の<sup>だいがくちうよう</sup>（595頁11行）

4 此一卷は大がくちうようの<sup>だいがくちうよう</sup>（8オ5行）

※4「入道が」を省略。

1 此旨<sup>むね</sup>を守て<sup>まもつ</sup>（36頁下段9行）

2 此むねをまもりて<sup>まもつ</sup>（351頁10行）

3 此むねをまもつて<sup>まもつ</sup>（596頁2行）

4 此旨を守て<sup>まもつ</sup>（8オ6行）

※2「まもりて」とする。

1 君<sup>地色ワ</sup>に忠をはげむべし（36頁下段10行）

2 君<sup>地色ワ</sup>に忠をはげむべし（351頁10行）

3 君<sup>地色ワ</sup>に忠をはげむべし（596頁2行）

4 君<sup>地色ワ</sup>を忠をはげむべし（8オ7行）

※4「君を」とする。

1 今川了俊愚息仲秋<sup>ぐそくなかあき</sup>（36頁下段11行）

2 今川れうしゆんぐそくなか秋<sup>ぐそくなかあき</sup>（351頁11行）

3 今川了俊愚息仲秋<sup>ぐそくなかあき</sup>（596頁3行）

4 今川了俊愚息仲秋<sup>ぐそくなかあき</sup>（8オ8行）

※4節付「ウ」を省略。

1 是<sup>色</sup>也けり（36頁下段12行）

2 是<sup>色</sup>□けり（351頁11行）

3 是也けり（596頁4行）

4 是也けり（8オ8行）

※2□は判読不能。3、4節付「色」省略。

1 宣<sup>ウ</sup>へは（36頁下段15行）

2 の給へは<sup>ウ</sup>（351頁13行）

3 の給へば（596頁7行）

4 の給へば（8ウ1行）

※3、4節付「ウ」を省略。



- 1 <sup>地色ウ</sup>するがのかみ (36 頁下段 16 行)  
 2 <sup>地色ウ</sup>するがのかみ (351 頁 13 行)  
 3 するがのかみ (596 頁 9 行)  
 4 するがのかみ (8 オ 1 行)  
 ※ 3、4 節付「地色ウ」を省略。

- 1 <sup>詞</sup>さんぐ (36 頁下段 18 行)  
 2 <sup>詞</sup>さんぐ (351 頁 15 行)  
 3 <sup>詞</sup>さんぐ (596 頁 11 行)  
 4 <sup>詞</sup>さてく (8 ウ 2 行)  
 ※ 4 「さて」とする。

- 1 <sup>によろぼうたち</sup>女房達 (36 頁下段 20 行)  
 2 女ばうたち (351 頁 16 行)  
 3 女房たち (597 頁 1 行)  
 4 女房 (8 ウ 4 行)  
 ※ 4 「たち」を省略。

- 1 御<sup>シ</sup>こゑにて (36 頁下段 21 行)  
 2 御<sup>シ</sup>こゑにて (351 頁 17 行)  
 3 御<sup>シ</sup>こゑにて (597 頁 2 行)

- 4 御身にて (8 ウ 5 行)  
 ※ 4 「御身」とする。

- 1 <sup>地色ウだいどうじ</sup>。大道寺 (37 頁上段 2 行)  
 2 <sup>地色ウ</sup>だいだうじ (352 頁 3 行)  
 3 <sup>地色ウ</sup>大道寺 (597 頁 8 行)  
 4 <sup>地色ウ</sup>。大道寺 (8 ウ 9 行)  
 ※ 4 節付「地色」とする。

- 1 今川了俊が (37 頁上段 7 行)  
 2 今川れうしゆんが (352 頁 5 行)  
 3 今川了俊が (598 頁 1 行)  
 4 今川が (9 オ 3 行)  
 ※ 4 「了俊」を省略。

- 1 <sup>色</sup>いはせて (37 頁上段 8 行)  
 2 <sup>色</sup>いはせて (352 頁 6 行)  
 3 <sup>色</sup>いはせて (598 頁 2 行)  
 4 いわせて (9 オ 3 行)  
 ※ 3、4 節付「色」を省略。

- 1 猶うたがひを (37 頁上段 15 行)  
 2 なをうたがひを (352 頁 9 行)

3 猶<sup>ナラス</sup>うたがひを (598 頁 9 行)

4 うたがいを (9 才 8 行)

※ 4 「猶」を省略。

1 御<sup>ン</sup>前に (37 頁上段 16 行)

2 御<sup>ン</sup>まへに (352 頁 10 行)

3 御前に (598 頁 10 行)

4 御前に (9 才 9 行)

※ 3、4 送り字「ン」を省略。

1 めぐはせし (37 頁上段 17 行)

2 めくばせし (352 頁 10 行)

3 めぐはせし (598 頁 11 行)

4 めくばせし (9 才 9 行)

※ 1、3 「めぐはせ」とする。

1 さ<sup>色</sup>げられ (37 頁上段 24 行)

2 さ<sup>色</sup>げられ (352 頁 13 行)

3 さ<sup>色</sup>げられ (599 頁 6 行)

4 さげられ (9 才 4 行)

※ 4 節付「色」を省略。

1 物<sup>ナラス</sup>がしら (37 頁下段 3 行)

2 物<sup>ナラス</sup>がしら (352 頁 16 行)

3 物頭<sup>ナラスがしら</sup> (599 頁 10 行)

4 物頭 (9 才 7 行)

※ 4 節付「ナラス」を省略。

1 心を一ちに (37 頁下段 8 行)

2 心を一ちに (353 頁 1 行)

3 心を一ちに (600 頁 3 行)

4 一ちに (9 才 10 行)

※ 4 「心を」を省略。

1 うきしまがはらに (37 頁下段 9 行)

2 うきしまがはらに (352 頁 2 行)

3 うきしまがはらに (600 頁 3 行)

4 うきしまか原 (10 才 1 行)

※ 4 「に」を省略。

1 ふじ川をまへに (37 頁下段 9 行)

2 ふじ川をまへに (353 頁 2 行)

3 ふじ川をまへに (600 頁 4 行)

4 ふち川をましに (10 才 1 行)

※4 「ましに」とする。

- 1 たやすくおちぬ (37頁下段15行)
  - 2 たやすくおちぬ (353頁5行)
  - 3 たやすくはおちぬ (600頁10行)
  - 4 たやすくはおちぬ (10才4行)
- ※3、4 「は」を加える。

- 1 地色中 それ大道寺を (38頁上段20行)
  - 2 地色中 それ大だうじを (356頁2行)
  - 3 地色中 それ大道寺を (603頁4行)
  - 4 地色中 それ大道寺を (11才3行)
- ※3、4 節付「ウ」を省略。

- 1 かつふさ中 勝房。 (38頁上段22行)
  - 2 かつふさ。 (356頁3行)
  - 3 勝房。 (603頁6行)
  - 4 勝房。 (11才4行)
- ※3、4 節付「中」を省略。

- 1 こくしゆのついでん (38頁上段25行)

- 2 こくしゆのついでん (356頁5行)
  - 3 こくしゆのついでん (603頁9行)
  - 4 こくついでん (11才6行)
- ※4 「しゆの」を省略。

- 1 とがにんをたすけ (38頁下段1行)
  - 2 とがにんをたすけ (356頁5行)
  - 3 とがにんたすけ (603頁10行)
  - 4 とがにんたすけ (11才6行)
- ※3、4 「を」を省略。

- 1 まゆをひそめ。 (38頁下段4行)
  - 2 まゆをひそめ。 (356頁7行)
  - 3 まゆをひそめ。 (604頁1行)
  - 4 まゆをひそめて。 (11才8行)
- ※4 「て」を加える。

- 1 まゝにはせじ。 (38頁下段20行)
  - 2 まゝにはせじ。 (356頁14行)
  - 3 まゝにはせじ。 (605頁5行)
  - 4 まゝにせじ。 (11才9行)
- ※4 「は」を省略。

1 国をきりとる (38 頁下段 24 行)

2 国をきりとる (356 頁 16 行)

3 国をきりとる (605 頁 9 行)

4 るを切取 (12 オ 1 行)

※ 4 「る」は直前の文字「取立」の送り仮名か。文章の意味が通らない。

1 入けるは (39 頁上段 6 行)

2 入けるは (357 頁 3 行)

3 入けるは (606 頁 4 行)

4 入にけるは (12 オ 7 行)

※ 4 「に」を加える。

1 よつく見をけと一むちあて。 (39 頁上段 15 行)

2 よつく見をけと一むちあて。 (357 頁 7 行)

3 よつく見をけとむちあて。 (607 頁 1 行)

4 よつて見おけとむちあて。 (12 ウ 2 行)

※ 4 「よつて」とする。3、4 「一」を省略。

1 こゑをかけて (39 頁上段 16 行)

2 こゑをかけて (357 頁 8 行)

3 こゑをかけて (607 頁 2 行)

4 こゑを掛けては (12 ウ 3 行)

※ 4 「は」を加える。

1 げに今川の (39 頁上段 18 行)

2 げに今川の (357 頁 9 行)

3 げに今川の (607 頁 4 行)

4 げに今川の (12 ウ 5 行)

※ 3、4 節付「詞」を省略。

### 第三

1 地中 大道寺新兵衛尉勝房 (39 頁上段 21 行)

2 地中 大たうじ新兵衛のぜうかつふさ (357 頁 11 行)

3 地中 大道寺新兵衛尉勝房 (607 頁 7 行)

4 地中 大道寺新兵衛尉勝房 (12 ウ 6 行)

※ 4 節付「ハル」を省略。

1 かゝる所に (39 頁上段 22 行)

2 かゝる所に (357 頁 11 行)

3 かゝる所に (607 頁 8 行)

4 かゝる所へに (12 ウ 7 行)

※4「へ」を加える。

1 いづれへの御こし (39頁下段3行)

2 いづれへの御こし (357頁14行)

3 いづれへ御こし (608頁2行)

4 いづれへ御こし (12ウ10行)

※3、4「の」を省略。

1 し<sup>ハル</sup>あんをめぐらすに (39頁下段8行)

2 し<sup>ハル</sup>あんをめぐらすに (357頁16行)

3 し<sup>ハル</sup>あんをめぐらすに (608頁7行)

4 し<sup>ハル</sup>あんをめぐらすに (13オ4行)

※3、4節付「色」を省略。

1 よび返す (39頁下段9行)

2 よび返す (357頁17行)

3 よび返す (608頁8行)

4 返す (13オ5行)

※4「よび」を省略。

1 見候へは (39頁下段17行)

2 見候へば (358頁4行)

3 見候へば (609頁4行)

4 見給へは (13オ10行)

※4「給へ」とする。

1 たくみうたがひなし (39頁下段19行)

2 たくみうたがひなし (358頁5行)

3 たくみうたがひなし (609頁6行)

4 たくみさしたか (13ウ2行)

※4「さしたか」と読める。ただし「か」はよく判読できない。

1 某一みせんずる男と (39頁下段21行)

2 某一みせんずるおとこと (358頁6行)

3 某一みせんずる男と (609頁8行)

4 一みせんずる男と (13ウ4行)

※4「某」を省略。

1 取かへさんために (40頁上段11行)

2 取かへさんために (358頁14行)

3 取かへさんために (610頁12行)

4 取かへさんため (14オ5行)

※4「に」を省略。

- 1 帰る迄もなし (40 頁上段 14 行)
- 2 かへる迄もなし (358 頁 16 行)
- 3 かへる迄もなし (611 頁 3 行)
- 4 返ることもなし (14 オ 7 行)

※ 4 「こと」とする。

- 1 はか所。さすがいさめるもうしやうも。 (40 頁上段 18 行)
- 2 はか所。さすがいさめるまうしやうも。 (360 頁 1 行)
- 3 はか所。さすがいさめるもうしやうも。 (611 頁 7 行)
- 4 はか所。さすかいさめるもふしやうも。 (14 オ 9 行)

※ 2 は二カ所、4 は一カ所節付「ウ」を省略。4 節付「中」、句点を一つ省略。

- 1 や、はつしも、 (40 頁上段 22 行)
- 2 や、はつしも、 (360 頁 2 行)
- 3 や、はつしも、 (611 頁 11 行)
- 4 や、はつしも、 (14 ウ 2 行)

※ 4 節付「地色」とする。

- 1 つ、のしきみに (40 頁下段 2 行)

- 2 つ、のしきみに (360 頁 5 行)
  - 3 つ、のしきみに (612 頁 5 行)
  - 4 箇のしきみに (14 ウ 6 行)
- ※ 4 節付「ウ」を省略。

- 1 見えければ (40 頁下段 4 行)
  - 2 みへければ (360 頁 6 行)
  - 3 みへにければ (612 頁 7 行)
  - 4 みへにければ (14 ウ 7 行)
- ※ 3、4 「に」を加える。

- 1 件の文を (40 頁下段 7 行)
  - 2 くだんの文を (360 頁 7 行)
  - 3 くだんのふみを (612 頁 10 行)
  - 4 くだんのふみを (14 ウ 9 行)
- ※ 3、4 節付「詞」を省略。

- 1 わすれ候はぬものを (40 頁下段 13 行)
  - 2 わすれ候はぬものを (360 頁 9 行)
  - 3 わすれ候はぬものを (613 頁 4 行)
  - 4 候はぬ物を (15 オ 2 行)
- ※ 4 「わすれ」を省略。

- 1 いなせの御をとづれも (40 頁下段 13 行)
- 2 いなせの御をとづれも (360 頁 10 行)
- 3 いなせの御をとづれも (613 頁 5 行)
- 4 いなせの御おとづれも (15 才 3 行)

※ 4 節付「ウ」の一つを省略。

- 1 ゆめのよすがは物いはず (40 頁下段 15 行)
- 2 ゆめのよすがはものいはず (360 頁 11 行)
- 3 ゆめのよすがは物いはず (613 頁 6 行)
- 4 夢のよすがは物いはず (15 才 4 行)

※ 2 「いは」の横に墨譜か濁点が付されている。4 節付「フシ」「ウ」を省略。「いはせ」とする。

- 1 はるくくだり (40 頁下段 17 行)
- 2 はるくくだり (360 頁 12 行)
- 3 はるくくだり (613 頁 8 行)
- 4 はるくくだり (15 才 5 行)

※ 3、4 節付「色」を省略。

- 1 仲秋さまの御かたへ都のものとよみもおはらず (40 頁下段 21 行)

- 2 なか秋さまの御かたへ都のものとよみもおはらず (360 頁 14 行)
- 3 仲秋さまの御かたへ都のものとよみもおはらず (613 頁 12 行)
- 4 仲秋様の御かたへ都の者とよみもおはらず (15 才 8 行)

※ 3、4 節付「詞」を省略。4 節付「地」を省略。

- 1 はらをか、へてゐたりけり (40 頁下段 23 行)
- 2 はらをか、へてゐたりけり (360 頁 15 行)
- 3 はらをか、へてゐたりけり (614 頁 2 行)
- 4 はらをか、へてゐたりけり (15 才 10 行)

※ 4 節付「フシ中」「ハル」を省略。

- 1 娘なるが (40 頁下段 25 行)
- 2 娘なるが (360 頁 16 行)
- 3 姫なるが (614 頁 4 行)
- 4 姫なるが (15 才 1 行)

※ 3、4 「姫」とする。

- 1 むなづくししかととつて是男 (41 頁上段 6 行)
- 2 むなづくししかととつて是男 (361 頁 2 行)
- 3 むなづくししかととつて是男 (614 頁 10 行)
- 4 むなづくししかと取て是男 (15 才 5 行)

※ 4 判読しにくい「むなづくし」と読める。節付「色」を省略。

- 1 いとはぬながら (41頁上段7行)
  - 2 いとはぬながら (361頁3行)
  - 3 いとはぬながら (614頁12行)
  - 4 いとはぬながら (15ウ6行)
- ※3、4 節付「ウ」を加える。

- 1 あひぼれの (41頁上段10行)
  - 2 あひぼれの (361頁4行)
  - 3 あひぼれ (615頁3行)
  - 4 あいぼれ (15ウ8行)
- ※3、4 「の」を省略。

- 1 心にかゝりしが。君と我とが仲秋か (41頁上段13行)
  - 2 心にかゝりしが。君と我とがな秋か (361頁6行)
  - 3 心にかゝりしが。君と我とが仲秋か (615頁5行)
  - 4 心にかゝりしが。君と我とが仲秋か (15ウ10行)
- ※3、4 節付「ハル」「ウ」を省略。

- 1 や、有て立かへり (41頁下段4行)
- 2 や、有て立かへり (361頁14行)

- 3 や、有て立かへり (616頁10行)
  - 4 や、有て立帰る (16ウ1行)
- ※4 節付「色」を省略。

- 1 宣へども (41頁下段8行)
  - 2 の給へども (361頁16行)
  - 3 の給へ共 (617頁2行)
  - 4 の給へは (16ウ4行)
- ※4 「は」と読める。

- 1 しかる所へ (41頁下段10行)
  - 2 然る所へ (361頁17行)
  - 3 しかる所へ (617頁4行)
  - 4 しかる所へ (16ウ5行)
- ※4 節付「地色ウ」を省略。

- 1 是は正しき (41頁下段15行)
  - 2 是はまさしき (362頁3行)
  - 3 是は正しき (617頁9行)
  - 4 是は正しく (16ウ8行)
- ※4 「く」とする。



- 1 家中一同の (41 頁下段 15 行)
  - 2 かちう一とうの (362 頁 3 行)
  - 3 家中一同の (617 頁 9 行)
  - 4 かちう一どのうの (16 ウ 9 行)
- ※ 4 「一どのう」と読める。

- 1 うたがひもなく (41 頁下段 16 行)  
地
  - 2 うたがひもなく (362 頁 3 行)  
地
  - 3 うたがひもなく (617 頁 10 行)  
地
  - 4 うたがひもなく (16 ウ 9 行)
- ※ 4 節付「地」を省略。

- 1 青砥五郎つつ立あがり (41 頁下段 22 行)  
詞あんど
  - 2 あをと五 (郎) つつ立あがり (362 頁 5 行)  
詞
  - 3 青砥五郎つつと立あがり (618 頁 4 行)
  - 4 あをと五郎つゝと立あがり (17 オ 2 行)
- ※ 3、4 節付「詞」を省略、「と」を加える。 2 「郎」は判読しづらい。

- 1 大道寺新兵衛 (42 頁上段 4 行)  
地ハル
- 2 だいだうじ新兵衛 (362 頁 9 行)  
地ハル

- 3 大道寺新兵衛 (618 頁 11 行)  
地ハル
  - 4 大道寺新兵衛 (17 オ 7 行)  
地色ハル
- ※ 4 節付「地色ハル」とする。

- 1 をのれらがやうに (42 頁上段 11 行)
  - 2 をのれらがやうに (362 頁 13 行)
  - 3 をのれらがやうに (619 頁 6 行)
  - 4 おのれがやうに (17 ウ 2 行)
- ※ 4 「ら」を省略。

- 1 うばひとらん心ざしと (42 頁上段 16 行)
  - 2 うばひとらん心ざしと (362 頁 16 行)
  - 3 うばひとらん心ざし (619 頁 11 行)
  - 4 うばい取ん心ざし (17 ウ 6 行)
- ※ 3、4 「と」を省略。

- 1 先あんどせり (42 頁上段 18 行)
  - 2 先あんどせり (362 頁 17 行)
  - 3 先あんどせり (620 頁 1 行)
  - 4 あんどせり (17 ウ 7 行)
- ※ 4 「先」を省略。

- 1 其せうことは何事ぞ (42頁上段21行)
  - 2 其せうことは何事ぞ (363頁1行)
  - 3 其せうことは何事ぞ (620頁4行)
  - 4 其せうことは何事ぞ (17ウ8行)
- ※4 「は」を加える。

- 1 三人横手をはたと打 (42頁下段15行)
  - 2 三人よこ手をはたと打 (363頁11行)
  - 3 三人よこ手をはたと打 (621頁11行)
  - 4 三人よこでをはたと打 (18ウ1行)
- ※3、4 節付「ハル」を加える。4 「と」を省略。

- 1 青碓五郎大地を打て (42頁下段20行)
  - 2 あをと五郎大地を打て (363頁14行)
  - 3 青碓五郎大地を打て (622頁5行)
  - 4 あをと大地を打て (18ウ4行)
- ※4 「五郎」を省略。

- 1 今はいかよとみへけるが (42頁下段24行)
- 2 今はいかよとみへけるが (363頁16行)
- 3 今はいかよとみへけるが (622頁10行)

- 4 今はいかよとみへけるが (18ウ8行)
- ※4 節付「色」を省略。

- 1 ほねはこにはたく共 (43頁上段1行)
  - 2 ほねはこにはたくとも (363頁17行)
  - 3 ほねはこにはたく共 (622頁12頁)
  - 4 ほねはこにはたく共 (18ウ9行)
- ※3、4 節付「地」を省略。

- 1 世上こそつてかんじける (43頁上段8行)
  - 2 せじやうこそつてかんじける (364頁4行)
  - 3 世上こそつてかんじける (623頁8行)
  - 4 上下こそつてかんじける (19オ5行)
- ※4 「上下」とする。

#### 第四

- 1 高き職位にも (43頁上段11行)
  - 2 高きつかさくらゐにも (364頁6行)
  - 3 高きつかさくらゐにも (623頁10行)
  - 4 高きつかさくらゐに (19オ6行)
- ※4 節付「ハル」、「も」を省略。

1 謀計<sup>ウ</sup>を以て (43頁上段12行)

2 ばうけい<sup>ウ</sup>を以て (364頁6行)

3 ばうけい<sup>ウ</sup>を以て (623頁11行)

4 はうけい<sup>ウ</sup>を以て (19オ7行)

※1 ルビ「ばうけい」と節付「ウ」は横並びに記してある。

3、4 節付「ウ」を省略。

1 さぎを烏<sup>からす</sup>のついしやう (43頁上段14行)

2 さぎをからすのついしやう (364頁8行)

3 さぎをからすのついしやう (624頁3行)

4 さぎをからすのついしやう (19オ8行)

※4 「からすと」とする。

1 梶<sup>ハル</sup>田<sup>かた</sup>桐<sup>きり</sup>都<sup>つ</sup>築<sup>まき</sup>などを召あつめ (43頁上段16行)

2 かち<sup>ハル</sup>たかたがりつゞき<sup>ハル</sup>などを召あつめ (364頁8行)

3 かち<sup>ハル</sup>たかたがりつゞき<sup>ハル</sup>などを召あつめ (624頁5行)

4 かち<sup>ハル</sup>だかたがり<sup>ハル</sup>などを召集 (19オ9行)

※4 「都築」を省略。

1 駿<sup>する</sup>河<sup>が</sup>守<sup>かみ</sup>申されしは (43頁上段16行)

2 する<sup>する</sup>が<sup>が</sup>のかみ<sup>かみ</sup>申されしは (364頁9行)

3 駿河守<sup>色</sup>申されしは (624頁6行)

4 駿河守申さるゝは (19オ10行)

※2、4 節付「色」を省略。4 「申さるゝ」とする。

1 某<sup>詞</sup>運<sup>うん</sup>にかなひし故 (43頁上段17行)

2 某<sup>詞</sup>うん<sup>うん</sup>にかなひしゆへ (364頁9行)

3 某<sup>詞</sup>うん<sup>うん</sup>にかなひし故 (624頁6行)

4 某うん故 (19オ10行)

※4 「にかなひし」、節付「詞」を省略。

1 都<sup>詞</sup>築<sup>まき</sup>監<sup>けん</sup>物<sup>もつ</sup>罷出 (43頁上段21行)

2 つゞき<sup>詞</sup>けんもつ罷出 (364頁10行)

3 都築監物罷出 (624頁10行)

4 つゞきけんもつ罷出 (19ウ2行)

※3、4 節付「詞」を省略。

1 千里<sup>地色中</sup>ののべに (43頁下段3行)

2 千里<sup>地色中</sup>ののべに (364頁13行)

3 千里ののべに (625頁4行)

4 千里の野へに (19ウ6行)

※3、4 節付「地色中」を省略。

1 フシハルよみとうたとよ (43 頁下段 12 行)

2 フシハルよみとうたとよ (364 頁 16 行)

3 フシハルよみとうたとよ (626 頁 2 行)

4 フシよみとうたとよ (20 オ 2 行)

※ 4 節付「フシ」とする。

1 ウゆめならば。むぐら (43 頁下段 14 行)

2 ウ夢ならば。むぐら (364 頁 17 行)

3 ウゆめならば。むぐら (626 頁 4 行)

4 ウゆめならば。むぐら (20 オ 3 行)

※ 4 節付「フシ」の位置が少し異なる。

1 ウあなた。こなたへゆけばみぎをりひだりをり。花 (43 頁下段 18 行)

2 ウあなたこなたへゆけばみぎをりひだりをり。花 (365 頁 2 行)

3 ウあなた。こなたへゆけばみぎをりひだりをり。花 (626 頁 8 行)

4 ウあなた。こなたへゆけばみぎをりひだりをり。花 (20 オ 7 行)

※ 3、4 節付「へ」を加える。4 節付「フシ」を省略。

1 小ウそなれ。はままつあきをへて (44 頁上段 7 行)

2 小ウそなれ。へはままつあきをへて (365 頁 7 行)

3 小ウそなれ。へはままつあきをへて (627 頁 10 行)

4 小ウそなれへはま松あきをへて (20 ウ 7 行)

※ 2、3、4 「へ」を加える。

1 地色中わらのかりほの中よりも (44 頁下段 11 行)

2 地色中わらのかりほの中よりも (368 頁 2 行)

3 地色わらのかりほの中よりも (630 頁 4 行)

4 地色わらのかりほの中よりも (21 ウ 9 行)

※ 3、4 節付「地色」とする。

1 地色ウ女房とかうのしさいはしらず (44 頁下段 21 行)

2 地色ウ女ばうとかうのしさいはしらず (368 頁 7 行)

3 地色ウ女房とかうのしさいはしらず (631 頁 3 行)

4 地色によばうとかふのしさいはしらず (22 オ 6 行)

※ 4 節付「地色」とする。

1 かけありき (44 頁下段 22 行)

2 かけありき (368 頁 7 行)

3 かけありき (631 頁 4 行)

4 かけあるき (22 オ 7 行)

※ 4 「あるき」とする。

1 水底を (44頁下段25行)

2 みなそこを (368頁9行)

3 水そこを (631頁8行)

4 水のそこを (22才9行)

※4「水の」とする。

1 橋守をつ取をしいたゞき (45頁上段1行)

2 はしもりをつとりをしいたゞき (368頁10行)

3 はしもりをつとりをしいたゞき (631頁9行)

4 橋おつ取をしいたゞき (22ウ1行)

※4「守」を省略。

1 三人の<sup>地</sup>人夫 (45頁上段3行)

2 三人の<sup>地</sup>にんぶ (368頁11行)

3 三人の<sup>地</sup>にんぶ (631頁11行)

4 三人の<sup>地</sup>にんぶ (22ウ2行)

※3、4節付「地」を省略。

1 <sup>地色ウ</sup>家ひんなれば (45頁上段11行)

2 <sup>地色ウ</sup>いゑひんなれば (368頁15行)

3 <sup>地色ウ</sup>家ひんなれば (632頁8行)

4 <sup>地色ウ</sup>家ひんなれば (22ウ8行)

※3節付「地色」を省略。4節付「地色ウ」を省略。

1 百金はおもけれども (45頁上段15行)

2 百金はおもけれども (368頁17行)

3 百金はおもけれども (633頁1行)

4 百金はおもけれども (23才1行)

※3、4節付「中」を省略。4「をけれ」とも読めるが「けれ」の文字がよく判読できない。

1 石瓦<sup>かはら</sup>にもをとったり (45頁上段16行)

2 いしかはらにもをとったり (368頁17行)

3 石かはらにもをとれり (633頁2行)

4 石かはらにもをとれり (23才2行)

※3、4節付「中」を省略。3、4「をとれり」とする。

1 あさまし、 (45頁上段21行)

2 あさまし (369頁3行)

3 あさまし (633頁7行)

4 あさまし (23才6行)

※4「し」を一つ省略。

- 1 天道の奉公。（こりや此男は（45頁下段5行）
  - 2 天道への奉公（こりや此おとこは（369頁7行）
  - 3 天道のほうこう。（こりや此男は（634頁5行）
  - 4 天道のほうこう。（こりや此男は（23ウ3行）
- ※2「へ」を加える。3、4節付「詞」を省略。

- 1 三重振廻也（45頁下段9行）
  - 2 三重ふるまひ也（369頁9行）
  - 3 三重へふるまひ也（634頁9行）
  - 4 三重へふるまひ也（23ウ6行）
- ※3、4記号「へ」を付す。

- 1 地色ウかたざり才蔵下人あまた引ぐし（45頁下段10行）
  - 2 地色ウかたざり才蔵下人あまた引ぐし（369頁9行）
  - 3 片桐才蔵下人あまた引ぐし（634頁10行）
  - 4 かたざり才蔵下人あまた引ぐし（23ウ6行）
- ※3、4節付「地色ウ」を省略。

- 1 是お侍（45頁下段16行）
- 2 是おさふらひ（369頁13行）
- 3 是はお侍（635頁5行）
- 4 是はお侍（24オ2行）

※3、4「は」を加える。

- 1 落人ををかふとも（45頁下段18行）
  - 2 おちうとををかふとも（369頁14行）
  - 3 おちうとををかふ共（635頁7行）
  - 4 おちうどおかふ共（24オ3行）
- ※4「を」を省略。

- 1 棒ををつ取のべ（46頁上段1行）
  - 2 ぼうををつ取のべ（369頁17行）
  - 3 ぼうをほつ取のべ（636頁2行）
  - 4 はうをほつ取のべ（24オ8行）
- ※3、4「ほつ取」とする。

- 1 地色中才蔵板橋を（46頁上段3行）
  - 2 地色中才蔵いたばしを（369頁17行）
  - 3 地色才蔵いたばしを（636頁4行）
  - 4 地色才蔵いたばしを（24オ9行）
- ※3、4節付「地色」とする。

- 1 こみあふ所を（46頁上段6行）

2 こみあふ所を (370 頁 2 行)

3 こみあふ所を (636 頁 7 行)

4 こみあふ所に (24 ウ 2 行)

※ 4 「に」とする。

1 夫婦は悦び (46 頁上段 18 行)

2 ふうふよろこび (370 頁 6 行)

3 ふう婦はよろこび (637 頁 9 行)

4 ふうふはよろこび (24 ウ 10 行)

※ 2 「は」を省略。3、4 節付「地」を省略。

1 悦ぶ夫婦 (46 頁上段 25 行)

2 よろこぶふうふ (370 頁 9 行)

3 よろこぶふう婦 (638 頁 4 行)

4 悦ふうふ (25 オ 6 行)

※ 4 送り仮名「ぶ」を省略。

## 第五

1 梢をならし (46 頁下段 7 行)

2 こずゑをならし (370 頁 14 行)

3 こずへをならし (639 頁 2 行)

4 こずへをならし (25 ウ 1 行)

※ 3、4 節付「ハル」を省略。

1 打ふし空いび。きして (46 頁下段 19 行)

2 打ふしそらいびきして (371 頁 2 行)

3 打ふしそらいびきして (640 頁 3 行)

4 ふしそらい。びきして (26 オ 1 行)

※ 4 「打」を省略。節付「フシ」の位置が異なる。

1 手をのべて (46 頁下段 21 行)

2 手をのべて (371 頁 2 行)

3 手をのべて (640 頁 5 行)

4 手をのばし (26 オ 2 行)

※ 4 「のばし」とする。

1 きりむすぶこそ (47 頁上段 5 行)

2 きりむすぶこそ (371 頁 6 行)

3 さりむすぶこそ (641 頁 4 行)

4 きりむすぶこそ (26 オ 8 行)

※ 3 「さり」とする。

1 片桐才蔵に出合 (47 頁上段 15 行)

2 かたぎり才蔵に出合 (371頁10行)

3 片桐才蔵出合 (642頁2行)

4 片桐才蔵出合 (26ウ5行)

※3、4「に」を省略。

1 扱<sup>地</sup>もあぶなし (47頁上段17行)

2 扱<sup>地</sup>もあぶなし (371頁11行)

3 扱もあぶなし (642頁4行)

4 扱もあぶなし (26ウ7行)

※3、4節付「地」を省略。

1 結<sup>地色中</sup>城右衛門大夫 (47頁上段19行)

2 ゆ<sup>地色中</sup>ふきゑも大夫 (371頁12行)

3 結<sup>地色中</sup>城右衛門太夫 (642頁7行)

4 結<sup>地ハル</sup>城右衛門太夫 (26ウ8行)

※4節付「地ハル」とする。

1 御せいは雲霞<sup>うんか</sup>のごとし (47頁上段22行)

2 御せいはうんかのごとし (371頁13行)

3 御せいはうんかのごとし (642頁10行)

4 御せいうんかのごとし (26ウ10行)

※4「は」を省略。

1 い<sup>地中</sup>でちやくたうを仕らん (47頁上段22行)

2 い<sup>地中ハル</sup>でちやくたうを仕らん (371頁13行)

3 い<sup>地中</sup>てちやくたうを仕らん (642頁11行)

4 いでちやくたうを仕らん (26ウ10行)

※4節付「地中」「ハル」を省略。

1 あ<sup>中</sup>べ川の運次<sup>うんじ</sup> (47頁下段6行)

2 あ<sup>中</sup>べ川のうんじ<sup>ウ</sup> (371頁17行)

3 あ<sup>中</sup>べ川の運次<sup>うんじ</sup> (643頁7行)

4 あ<sup>中</sup>べかはの運次<sup>うんじ</sup> (27オ7行)

※3、4節付「ウ」を省略。

1 加藤兵衛 (47頁下段8行)

2 加藤兵衛 (371頁17行)

3 加藤兵衛 (643頁9行)

4 藤兵衛 (27オ8行)

※2判読しにくい「加」の字は確認できる。4「加」を省略する。

1 かく<sup>詞</sup>の次第 (47頁下段12行)



2 かくの次第 (374 頁 2 行)

3 かくの次第 (644 頁 2 行)

4 かくの次第 (27ウ 2 行)

※ 2 節付、文字共に判読しにくい。3、4 節付「詞」を省略。

1 各只今参り合 (47 頁下段 20 行)

2 各只今参り合 (374 頁 5 行)

3 各只今参り合 (644 頁 11 行)

4 各々只今参り合 (27ウ 8 行)

※ 4 「々」を加える。

1 あらざれば (47 頁下段 24 行)

2 あらざれば (374 頁 7 行)

3 あらざれば (645 頁 3 行)

4 あらざれば (27ウ 10 行)

※ 3、4 節付「地」を省略。

1 左衛門尉仲秋 (47 頁下段 25 行)

2 左衛門尉なか秋 (374 頁 7 行)

3 左衛門村仲秋 (645 頁 4 行)

4 左衛門尉仲秋 (28オ 1 行)

※ 2 の節付は判読しにくい。3 「村」とする。3、4 節付「詞」

を省略。

1 うろたへまはるぞ (48 頁上段 11 行)

2 うろたへまはるぞ (374 頁 12 行)

3 うろたへまはるぞ (646 頁 5 行)

4 うろたへまはるぞ (28オ 10 行)

※ 4 節付「フシ」を省略。

1 貞広腰をぬかして (48 頁上段 14 行)

2 さだひろはこしをぬかして (374 頁 13 行)

3 貞広こしをぬかして (646 頁 7 行)

4 貞広こしをぬかして (28ウ 2 行)

※ 3、4 「は」を省略。

1 かねてごしたる事 (48 頁上段 15 行)

2 かねてごしたる事 (374 頁 13 行)

3 かねてごしたる事 (646 頁 8 行)

4 かねて期たる事 (28ウ 2 行)

※ 4 送り仮名「し」を省略。

1 へた、かひける (48 頁上段 18 行)

2 三重 た、かひける (374 頁14 行)

3 三重 へた、かひける (646 頁11 行)

4 三重 た、かひける (28ウ5 行)

※2、4「へ」を省略。

1 かうさんし残色ずく色な色に (48 頁上段19 行)

2 かうさんし残色ずく色な色に (374 頁15 行)

3 かうさんしのこり色ずく色な色に (647 頁1 行)

4 かうさんのこり色ずく色な色に (28ウ6 行)

※4「し」を省略。

1 太刀ふりまはせば (48 頁下段6 行)

2 たちふりまはせば (375 頁2 行)

3 太刀をふりまはせば (647 頁12 行)

4 太刀ふりまはせば (29オ5 行)

※3「を」を加える。

1 百地獣じゆうの洞ほらのうち (48 頁下段20 行)

2 百地じうのほらの内 (375 頁7 行)

3 百地じうのほらのうち (649 頁3 行)

4 百じうのほらのうち (29ウ6 行)

※4 節付「地」を省略。

1 扱詞立詞返り (48 頁下段20 行)

2 扱詞立□り (375 頁7 行)

3 扱詞立返り (649 頁3 行)

4 扱立返り (29ウ7 行)

※2の□は判読不能。4 節付「詞」を省略。

1 秘ひ術じゆつをつくし (49 頁上段1 行)

2 ひじゆつをつくし (375 頁9 行)

3 ひじゆつをつくして (649 頁10 行)

4 ひじゆつをつくして (30オ2 行)

※3、4「て」を加える。

1 十二とう燈とうにてたてずとも (49 頁上段3 行)

2 某は十二とうにてたてずとも (375 頁10 行)

3 某は十二とうこそたてずとも (649 頁11 行)

4 それかしは十二とうこそたてず共 (30オ4 行)

※2は判読しにくい。3、4「こそ」とする。

1 人フシ間フシわざとはみへざりけり (49 頁上段5 行)

2 人フシ間フシわざとはみへざりけり (375 頁11 行)

- 3 人げんわざとはみへざりけり (650頁2行)  
4 人げんわざとは見へざりけり (30才6行)

※2は判読しにくい。3、4節付「フシ」を省略。

- 1 討取うへ城中に人はなし (49頁上段6行)  
2 討取うへ城中に人はなし (375頁11行)  
3 討取うへ城中に人はなし (650頁3行)  
4 うち取うへは城中に人はなし (30才8行)

※4「は」を加える。

- 1 但<sup>詞</sup>大将<sup>詞</sup>駿河守がみへざるは (49頁上段6行)  
2 但大将するがののかみがみへざるは (375頁11行)  
3 たゞし大将駿河守がみへざるは (650頁3行)  
4 たゞし大しやうするがののかみ見へざるは (30才8行)

※3、4節付「詞」を省略。4「が」を省略。

- 1 五こくぶによのの太平楽 (49頁上段17行)  
2 五こくぶによのの太平らく (375頁16行)  
3 五こくぶによのの太平楽 (651頁2行)  
4 五こくふよのたいへいらく (30ウ8行)

※4「に」を省略。

以上、まだ遺漏もあるかと思われるが、4種の本についておよその比較を試みた。

その結果、1の八行本と2の絵入細字本とは共通する部分が多くみられ、また、3の十行三十三丁本と4の十行三十丁本には密接なつながりが感じられた。そして40行三十丁本は、30行三十三丁本を基にして作られた本ではないかとの印象を受けた。例えば初段、八行本(近松研究所紀要「第28号34頁上段23行」)に「五こくぶによの」という言葉があるが、3「五こくじによの」、4「五こくじによの」と表記されている。40行三十丁本は、30行三十三丁本を写す際に「う」を落としたのではないだろうか。

40行三十三丁本は、30行三十三丁本と丁数を単純に比べても三分の字句を削らなければならない。当然、省略が多くなる。しかしその省略も、他本では「荒川蔵人」(1八行本36頁上段6行)、「あらかはくらんど」(2絵入細字本)等としている所を、十行三十丁本では「荒川くらん」とするなど杜撰であり、字数は漢字で書くよりも、逆に増えている場合もある。字句を変える場合も、誤記かと思われる例が多く、他本の訂正や改善と考えられるものは、あまり見当たらない。

また節付の省略も多々見られるが、十行三十丁本はおおよそ十行三十三丁本と共通しており、八行本、絵入細字本よりも減る傾向にある。所々において十行三十丁本は、三十三丁本をさらに省略している。

刷りの具合から推測しても十行三十丁本は、恐らく八行本、絵入細字本、十行三十三丁本の後に板行された本と考えられる。十行三

十三丁本の本文末には再演時と考えられる元禄十六年の刊記が認められるので、十行三十丁本は元禄十六年以降に刊行された可能性が高い。

十行三十丁本は、本文や節付において八行本、絵入細字本等より劣ると言わざるを得ないが、このような本が出版されるのは『今川了俊』が繰り返し上演されていたことを窺わせ、また多くの読者が存在したであろうことも想定できる。今後、近松作品における十行本を考える上でも、無視することのできない事象であろう。

〔付記〕

「近松研究紀要」第28号の拙稿「〔資料紹介〕八行本『今川了俊』」において、八行本奥書が破損していることを記したが、この奥書は『近松全集』第一巻（岩波書店）所収の『主馬判官盛久』の奥書と同様のものであることを、乾安代先生を通じて神津武男氏よりご教示頂いた。従って八行本『今川了俊』奥書の破損部分は、『近松全集』第一巻五〇七頁『主馬判官盛久』の奥書により補うことが可能である。神津氏に篤く御礼申し上げる。

（客員研究員）